歯学部附属病院
歯科衛生保健部

全身の健康のために口腔内環境を改善

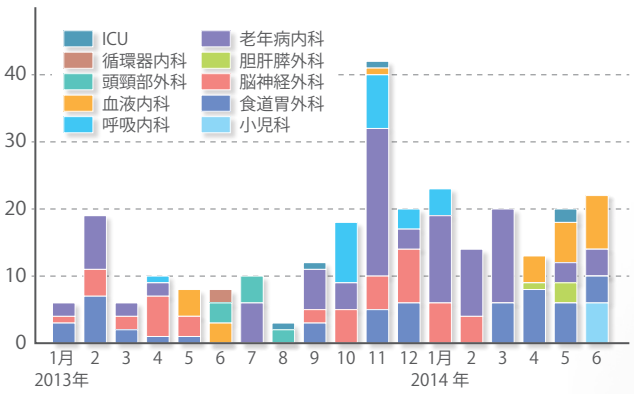
歯磨き指導 ◎ 口腔ケアの基本である歯磨き指導にはかなり時間をかける。「それぞれの歯を20回ずつは磨くようなイメージで」（足達部長）。

往診チーム ◎ 火曜日と木曜日の午後は外来受診が困難な患者の口腔ケアのため病棟に行く。往診は歯科医師と歯科衛生士数人のチーム体制で行う。周術期口腔ケアを必要とする患者は、全身管理とともに精神面でのケアも重要になる。

歯ブラシ ◎ ブラシの軟らかさや形、力の入れ加減に合わせたブリッジの硬さなど、その人に合った歯ブラシの選び方も指導する。歯ブラシを新調する目安は1カ月とのこと。

足達淑子部長 ◎「診断などは歯科医師が行いますが、歯科衛生士が主体となって口腔ケア計画を決め、実行できるのは東京医科歯科大学ならでは。これからは摂食嚥下機能に障害がある患者さんの口腔機能の向上にもかかわっていきたいと思っています」

医病往診件数



医病往診件数 ◎ 周術期口腔ケアを始めてから年々往診数は増加。特に多いのは、誤嚥性肺炎のリスクがある患者をはじめとした老年病内科。食道胃外科や血液内科などがん患者も多い。入院中でも自分で歩ける患者は外来を受診する。

口腔内の健康状態をチェックし、その人のライフスタイルに合った口腔ケア方法を指導する歯学部附属病院の歯科衛生士。各配属外来でも指導を行っているが、口腔ケア外来では日常のセルフケアの指導と併せて、歯石除去や歯面研磨などの専門的なプロフェッショナルケア、さらに、歯学部附属病院および医学部附属病院の入院患者の口腔ケアがメイン業務となる。

「むし歯や歯周病などの治療後、他科から紹介されて受診する人もいますが、予防のために定期的に受診する人が増えています」とは足達淑子部長。

口腔ケア外来では、医学部・歯学部両附属病院に入院中の患者を対象とした「周術期口腔ケア」にも力を注いでいる。化学療法や放射線の治療中はひどい口内炎やドライマウスが起こる。また、認知症患者や脳神経疾患患者では口腔内環境の悪化から誤嚥性肺炎などのリスクが上がる。このような患者に対して、全身状態を管理しながら口腔ケアを行う。

「病棟に行くと、看護師さんから日々のケアについて相談されることもあります。体位が変えられない患者さんの口腔ケアは特に難しいので、病棟看護師さんたちと協力しながら行っています」

がん患者に口腔機能管理を行い、感染症の発症率や入院日数が下がったというデータもある。今後ますます口腔ケア外来の重要度は増すだろう。 B

診療科DATA

口腔ケア外来

診療科長 ◎ 吉増秀實

診療スタッフ ◎
歯科衛生士 9人（小児歯科外来と兼任）

歯科ユニット ◎
6台（1日の外来患者数は30〜40人）

主な処置 ◎
口腔内診査・問診、歯周組織検査、歯科保健指導、歯石除去・歯面研磨（クリーニング）、フッ化物塗布・洗口剤処方、ペリオチェック

周術期口腔機能管理 ◎
口腔清掃指導、舌運動、口腔周辺筋や唾液腺のマッサージなどの口腔機能維持・向上のための指導、口腔内乾燥への指導、歯石除去・歯面研磨、フッ化物塗布